

# 14.海の豊かさを守ろう

## 「生物多様性のための30by30アライアンス」に加盟

「30by30アライアンス」とは、ネイチャーポジティブ\*実現に向けて、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。

30by30達成に向けた取り組みをオールジャパンで進めるため、環境省が発足した「生物多様性のための30by30アライアンス」(<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/>)に、慶應義塾も2023年5月に加盟しました。

生物多様性モニタリングを実施し、エビデンスに基づいた自然保護を実践していきます。

\* 日本語で「自然再興」といい、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことを指します。  
(環境省ホームページ <https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/eye/20240214.html>より)



## みなさんmiraiプロジェクト

「みなさんmiraiプロジェクト」は、最大規模の慶應の森がある南三陸町(宮城県)において、南三陸「で」・「から」・「と」学ぶ、すなわち、震災を乗り越えて様々な問題に立ち向かっている現地の方々から学び、さらに日本・世界へと視野を広げて、未来に活かす知見を現地の方と交換する、学びの循環をつくろうとする取り組みです。研究領域・所属キャンパスの垣根を超え、多様な学生や教員が参加しています。

9月8～10日に、第一期生による合宿を行いました。塾生20名と代表の経済学部 津田真弓教授を中心とした教職員7名が、山主として南三陸町の木材の世界的FSC認証にも関わっている慶應の森を軸に、町のバイオマス構想・木材(南三陸杉)・漁業(養殖)・防災(避難所運営)と、南三陸町の方々の試みや経験を学びました。

## シンポジウム「海と陸の豊かさー地球環境を考えるー」開催

自然科学研究教育センターは、地球環境を研究している4名の研究者を招き、2023年12月2日にシンポジウム「海と陸の豊かさー地球環境を考えるー」を開催しました。シンポジウムでは、神奈川県三浦半島にある小網代の谷(浦の川流域)での保全活動の現状や課題、海洋プラスチック研究、安定同位体分子の計測による環境理解、環境問題における国際法の役割について、それぞれの研究者が講演した後、質疑討論が行われました。

## オープンセミナー「ブルーテックが変える日本の海」開催

2024年2月29日、新川崎先端研究教育連携スクエアと川崎市経済労働局は、オープンセミナー「ブルーテックが変える日本の海」を開催しました。ブルーテックとは、Blue Technologyの略称で、海洋分野での先端デジタル技術のことです。

海水温の変動とそれに伴う漁獲量の変化、「海の森」と言われる藻場が消失する磯焼けなど、問題が顕在化している中、海洋分野はデジタル化やIoT化が最も遅れていると言われており、ブルーテックの推進による課題解決やビジネス創出への期待が高まっています。

セミナーでは、ブルーテックに取り組む研究・実務の第一人者を招き、その取り組みの紹介や座談会を実施しました。



## 塾生会議プロジェクト始動

「2022塾生会議」の提言を受けて7つのプロジェクトが採択され、2023年度に具体的な取り組みを実施しました。

### • ウォーターサーバープロジェクト

「2030年までに、ウォーターサーバーをキャンパス内の全ての施設に設置する」という提言を受けて、2023年度より、各キャンパスにウォーターサーバーを設置あるいは試行設置し、地球環境との"協生"へ向けた動きをスタートさせました。2023年10月には、「日常生活において、「マイボトル」を携帯し、授業の合間にウォーターサーバーで給水する行動を習慣化しよう!」という目標を達成するために、塾生会議のメンバーや有志の塾生とともに「スタンプラリー」を企画・実施しました。企画の一つとして行われたマイボトルの配布には、多くの塾生が列をつくりました。

